

世界、日本の結婚事情

堀井 里子

国際教養大学 グローバルスタディーズ課程 助教
E-mail: horii@aiu.ac.jp

1

今日の内容



結婚をめぐる世界と
日本の傾向



未来の社会と
家族の形



アンケート結果

2

「結婚に関する意識調査」

- 2019年度あきたスギッチファンド「少子化対策応援ファンド」対象助成事業
- 目的 結婚をめぐる社会背景を理解し秋田での実情を把握
- 子世代(137/600=22.8%)と親世代(166/650=25.5%)にわけて匿名アンケート
- 有効回答率100%

3

結婚をめぐる世界と日本の傾向 ～共通点～

結婚率、タイミング(年齢)、離婚率、子ども(出生率)

4

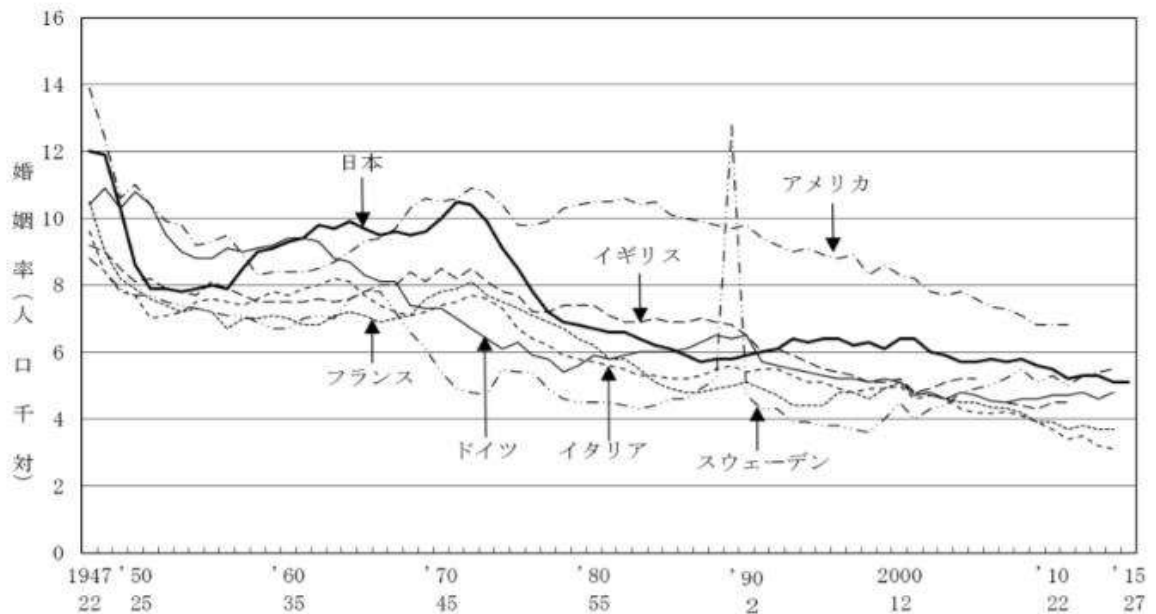
結婚(婚姻率の低下)

人口1,000人当たりの件数

- 秋田県 3.3 (3,311件(H29))
- 全国平均 4.9 (606,866件)
- 世界
 - 高いグループ エジプト 11.0 (他中国 9.6、アメリカ 6.0など)
 - 低いグループ カタール 1.5 (日本はスイスとともに下から38位)

5

図9 日本及び主な欧米諸国の婚姻率(人口千対)の年次推移 -昭和22~平成27年-



6

晩婚化

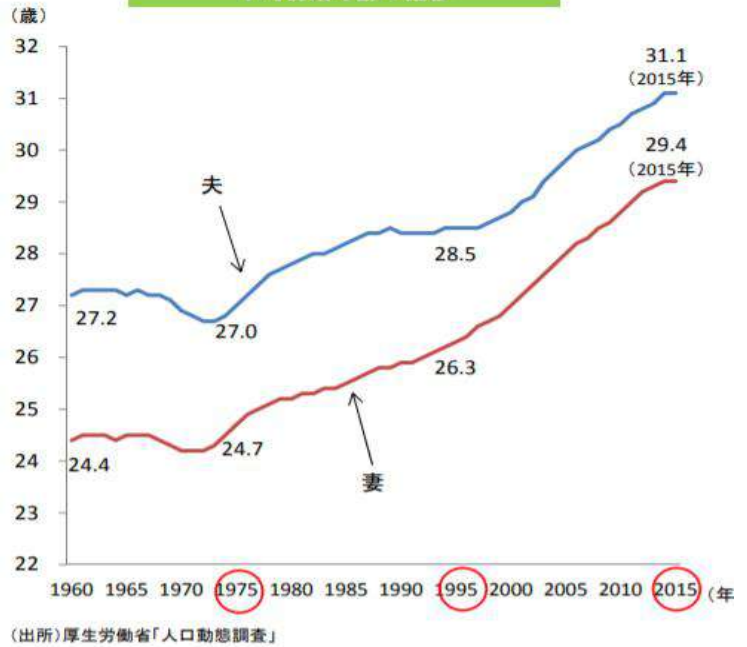
結婚時の年齢

スウェーデン 35歳

チリ、アイスランド 34歳

スペイン、デンマーク 33歳

平均初婚年齢の推移



7

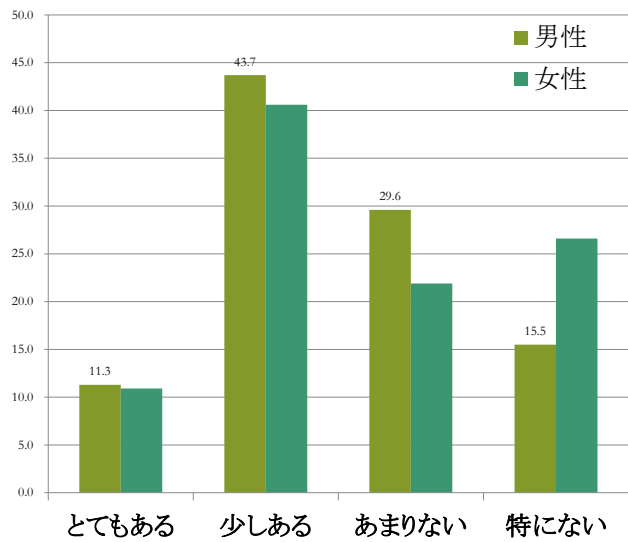
離婚率の上昇

人口1,000人当たり

- 緩やかに上昇(日本、世界的には高くも低くもない)
- 秋田県 1.38 (1,366件)
- 全国平均 1.70 (212,262件)
- 世界
 - 高いグループ ロシア 4.7
 - 低いグループ グアテマラ、ペルーなど 0.4

8

離婚・再婚への 抵抗感 (子世代 アンケート)



9

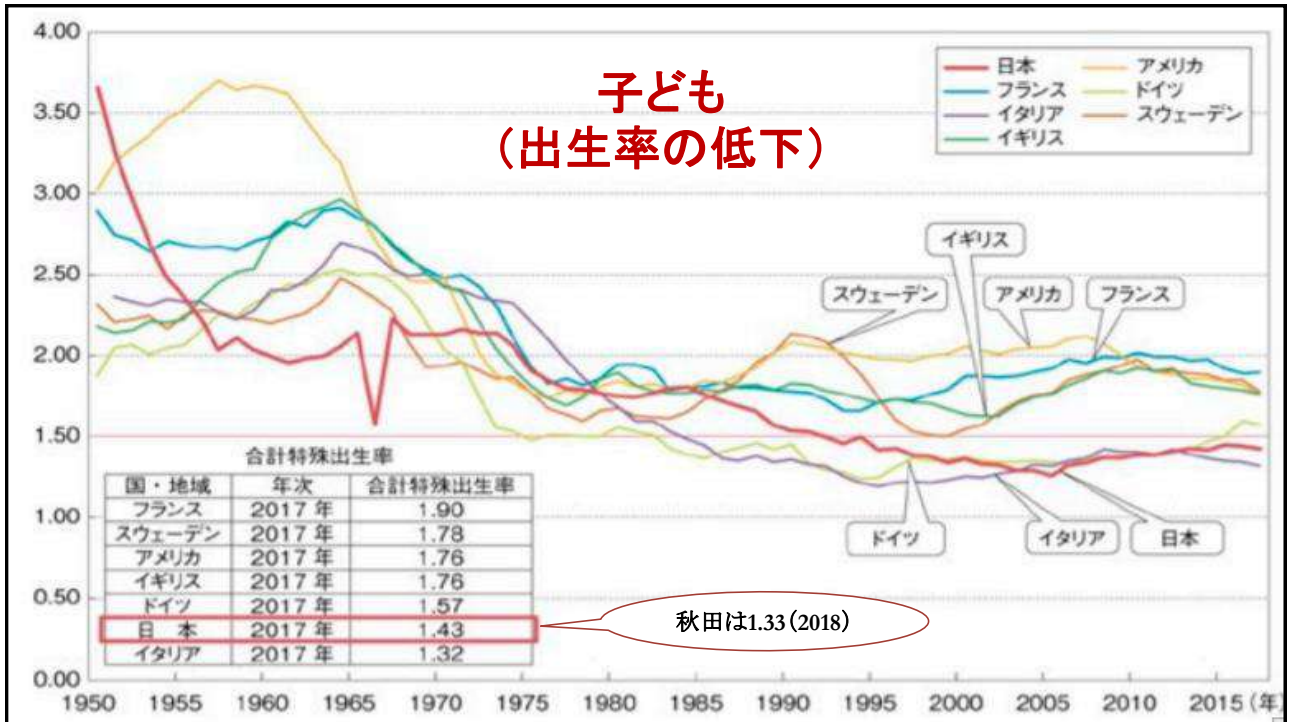
表1 離婚を考えた理由

離婚をした夫婦		離婚を検討中の夫婦		関係を修復した夫婦	
【夫】		【夫】		【夫】	
①生活のすれ違い	31.1%	①生活のすれ違い	33.3%	①生活のすれ違い	26.9%
②愛情が冷めた	25.2%	②性生活の不満	23.5%	②性生活の不満	15.4%
③性生活の不満	19.4%	③愛情が冷めた	19.6%	③仕事への無理解	13.5%
【妻】		【妻】		【妻】	
①金銭問題	48.5%	①生活のすれ違い	36.7%	①相手の親	27.8%
②愛情が冷めた	35.0%	②愛情が冷めた	28.6%	②金銭問題	18.5%
③相手の親	22.3%	③金銭問題	26.5%	③何となく	14.8%

出典：アエウ、2010年11月22日号、『離婚をした人 とどまった人の境目』、朝日新聞出版。
n=412 (40歳前後)、複数回答、※性格の不一致は除く

河野俊彦(2012)「『離婚』その潜在的要因」『佛教大学大学院 社会福祉学研究所 社会学研究科 第40号』、61頁。

10



11

結婚をめぐる世界と日本の傾向 ～相違点～

12

(参考)

出生に占める出生でない子の出生割合の国際比較

国名	最新年次	割合(%)
日本	2015	2.3
アメリカ合衆国	2014	40.2
フランス	2012	56.7
ドイツ	2014	35.0
イタリア	2014	28.8
スウェーデン	2014	54.6
イギリス	2012	47.6

結婚以外の 枠組みによる 「結婚」

- 同棲
- パートナーシップ婚
- 別居婚

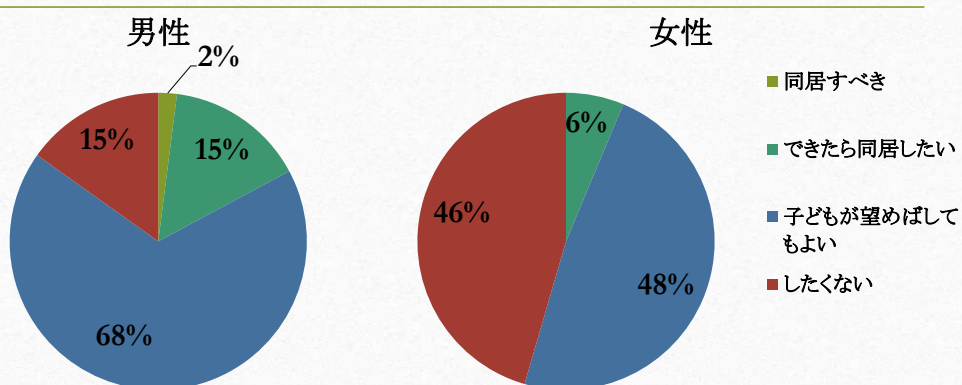
「婚姻率低下=恋愛や
関係構築に無関心」では
ない

その他の特筆すべき点

親との同居について

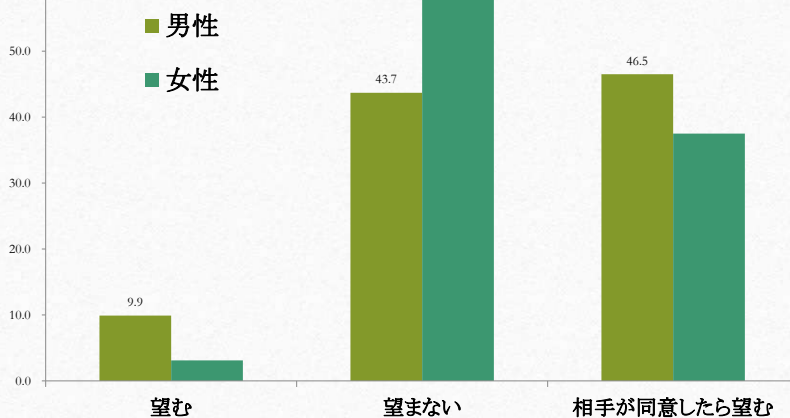
結婚後・出産後の夫婦の働き方について

子世代との同居について (親世代へのアンケート)



15

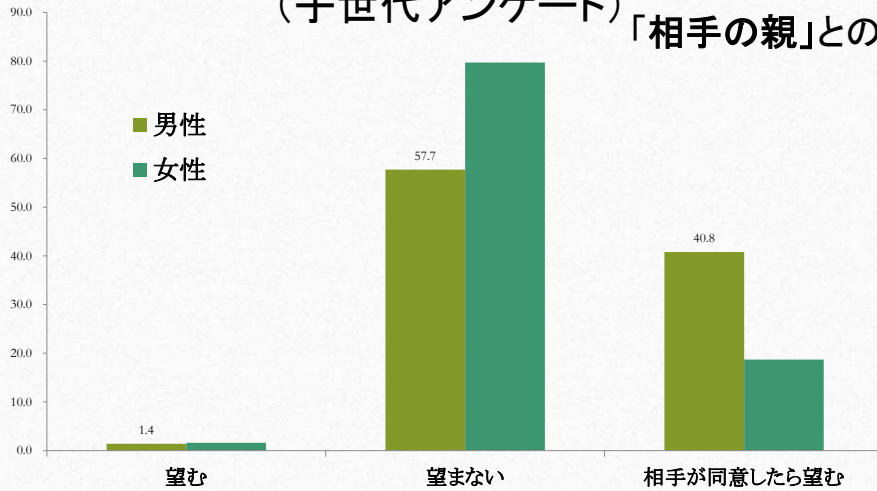
親世代との同居について (子世代アンケート) 「自分の親」との同居



16

親世代との同居について

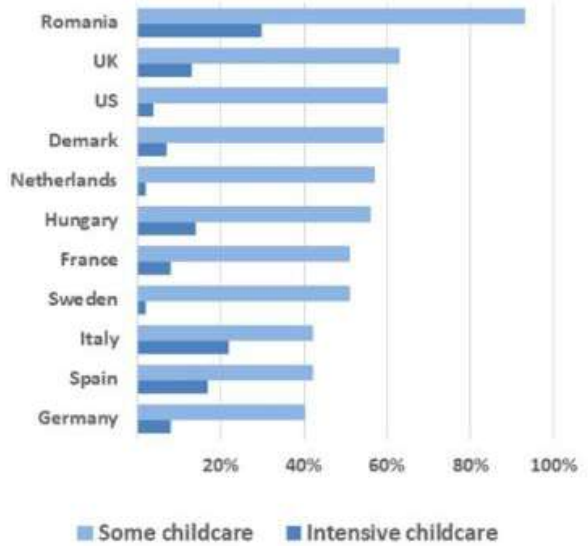
(子世代アンケート) 「相手の親」との同居



17

子育てならぬ
「孫育て」(!?)

Percent of Grandmothers Providing Care Selected Nations ~2013



18

未来の社会と結婚の形

制度の変化

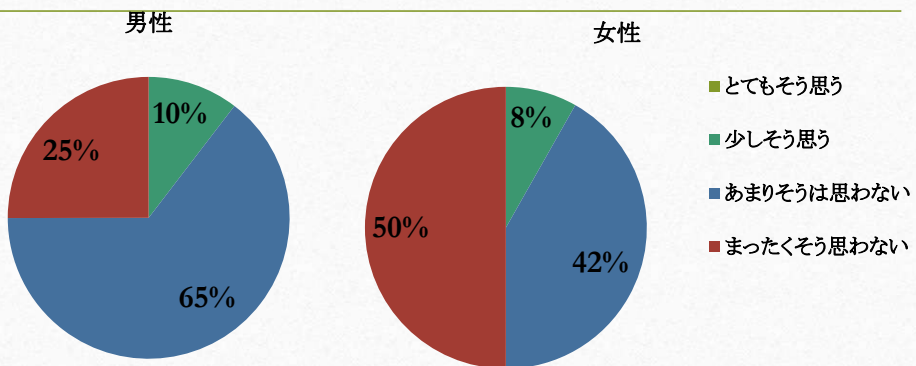
- 姓のあり方
- 結婚の枠組み

男女差に基づいた社会通念の変化、進化

- 男性の『女性化』女性の『男性化』
- 女性支援
- 幸せのための選択しのひとつとしての結婚

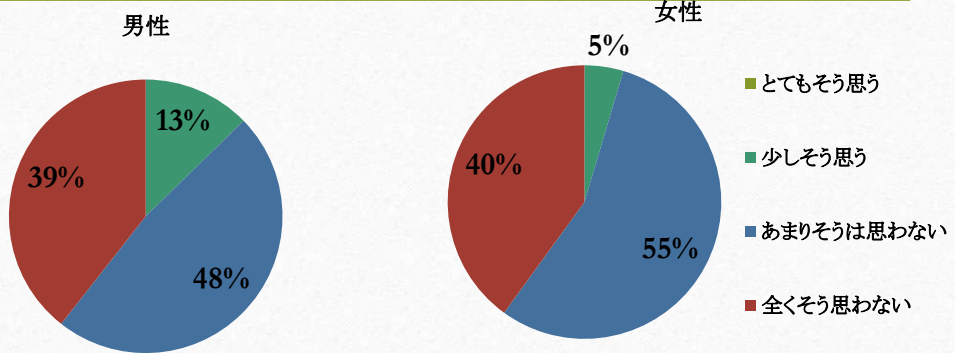
19

「男は仕事、女は家庭」 親世代



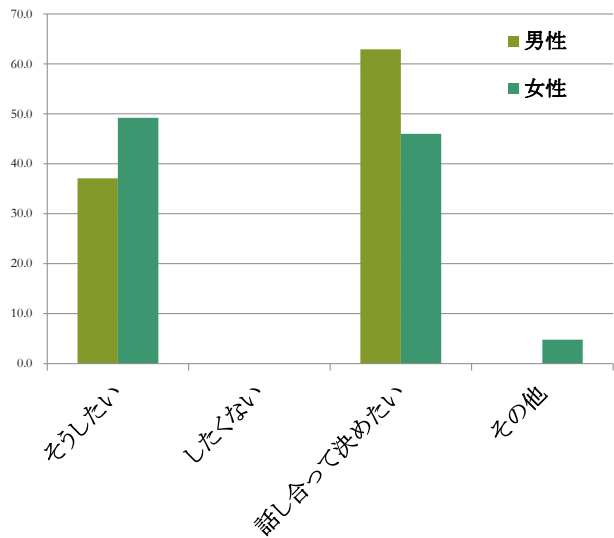
20

「男は仕事、女は家庭」 子世代



21

共働き (子世代アンケート)



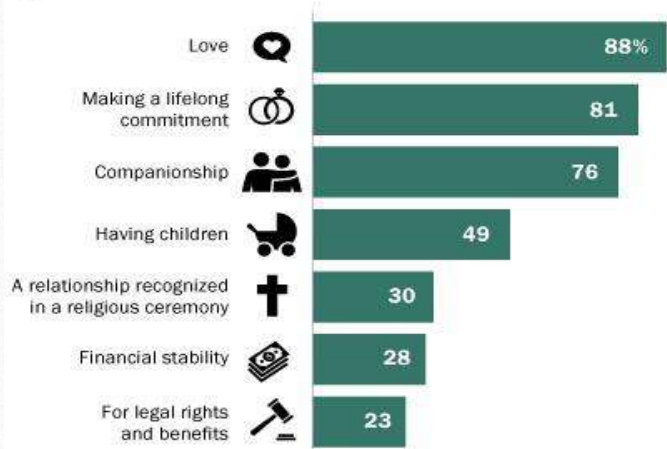
22

なぜ結婚？ アメリカの調査

Pew Research Center (2017) *Why get married?* Available from: <
https://www.pewresearch.org/ft_17-02-09_lovemarriage_reasons/> (2019年10月25日アクセス)。

Why get married?

% of the general public saying ___ is a very important reason to get married

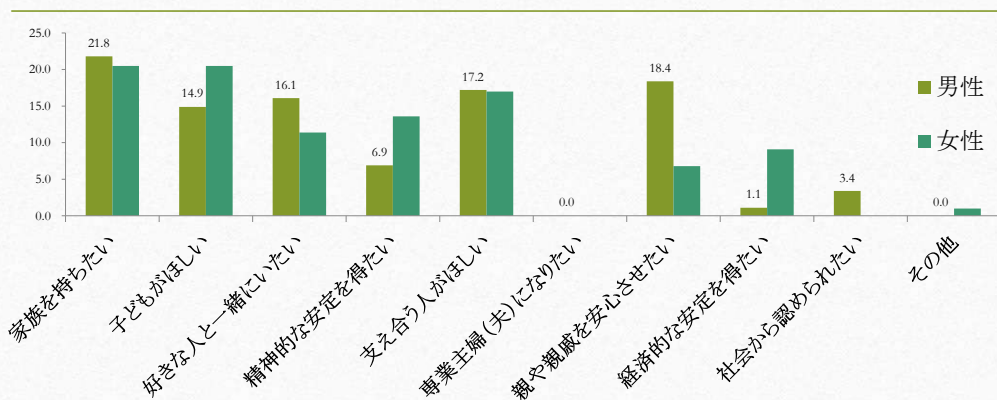


Source: Survey conducted May 10-13, 2013 (online poll).

PEW RESEARCH CENTER

23

結婚の理由(子世代アンケート)



24

親世代

- 幸せ
- 家庭・子どもをもつ
- 人生観が広がり、人として成長できる機会
- 最後に頼る相手は、夫/妻
- 辛いこと(夫婦の危機)もあるが、支え合う、補い合う
- 忍耐・我慢を学ぶ
- 時間がかかるが対等の大人同士として向き合うことを学ぶ
- 不平等さや辛さは女性が負いがち
- 法的にも認められ安心

25

子世代

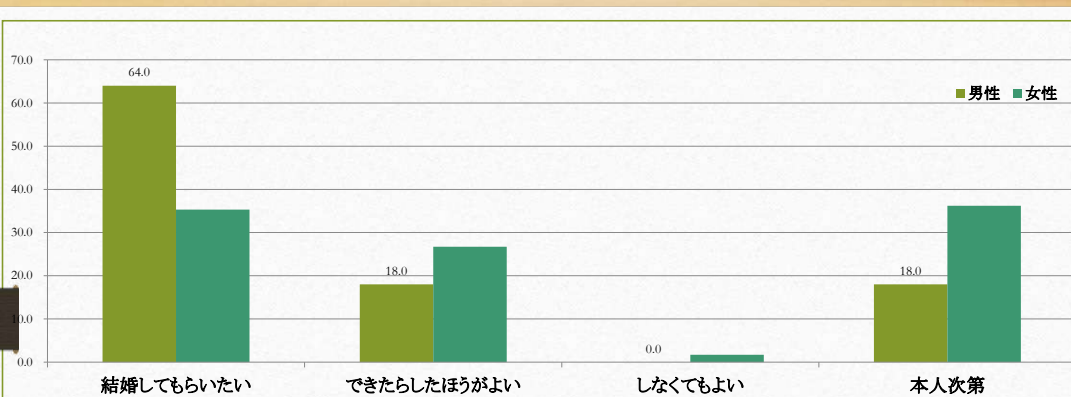
- タイミング
- 「結婚＝(自動的に)幸せ」ではない、認めあえることが大事
- 子育ては金ではなく愛
- 結婚を躊躇させる社会・時代では
- 補い合う
- しがらみ撤廃が必要
- 価値観について世代間で差
- 結婚の押しつけ
- 年を経て消極的に・・・
- 子どもがほしくないならメリットないのでは？
- 結婚以外のあり方もあるし・・・

26

アンケートの ポイント

親世代の回答

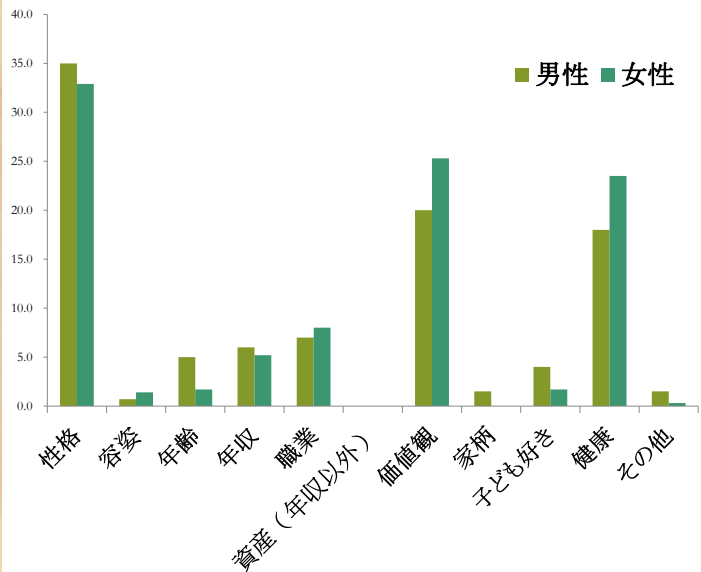
27



子どもの結婚について

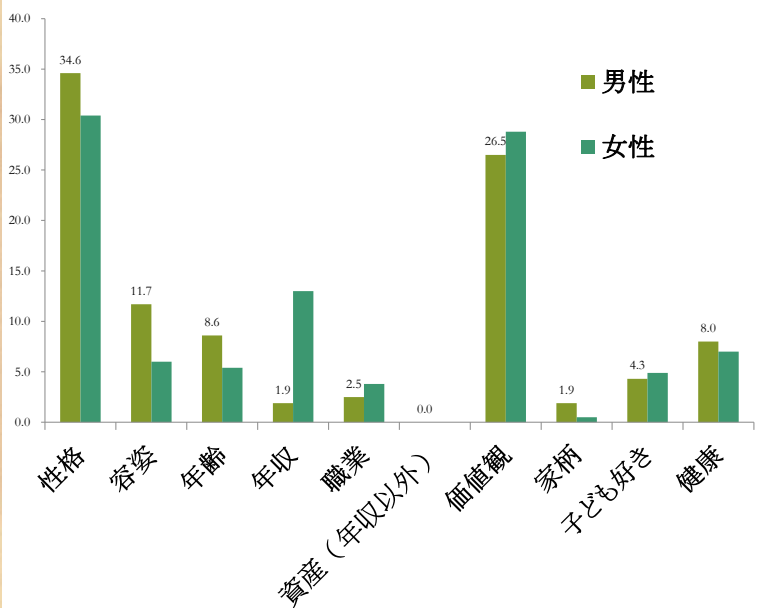
28

子どもの 結婚相手に 求める条件 (親世代アン ケート)



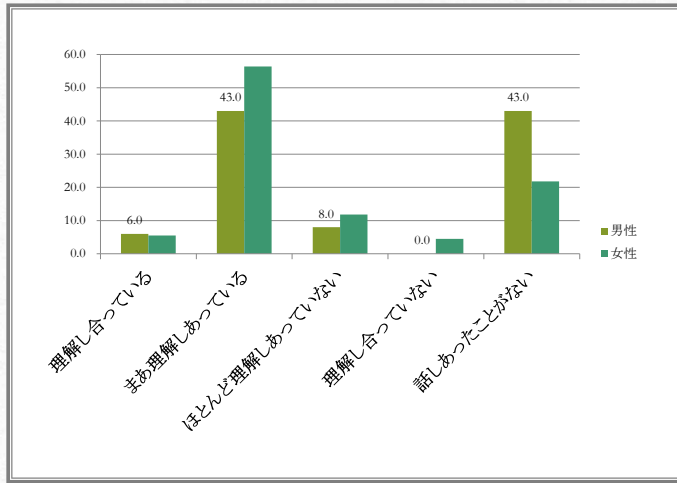
29

結婚相手に 求める条件 (子世代アン ケート)



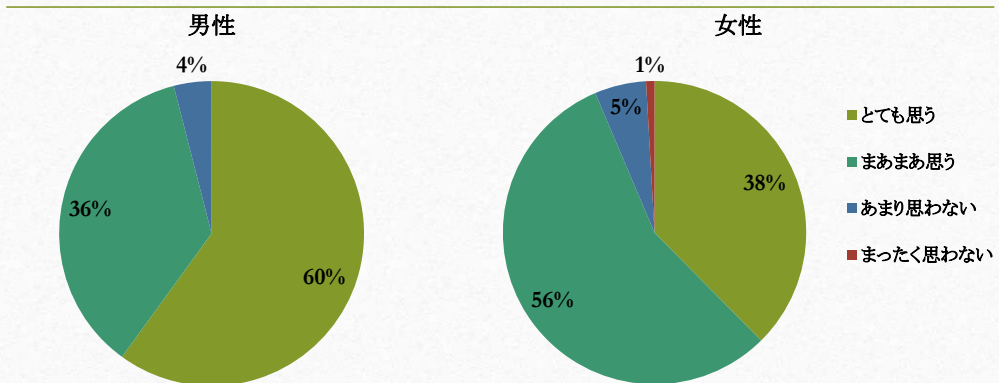
30

子どもとの意思疎通



31

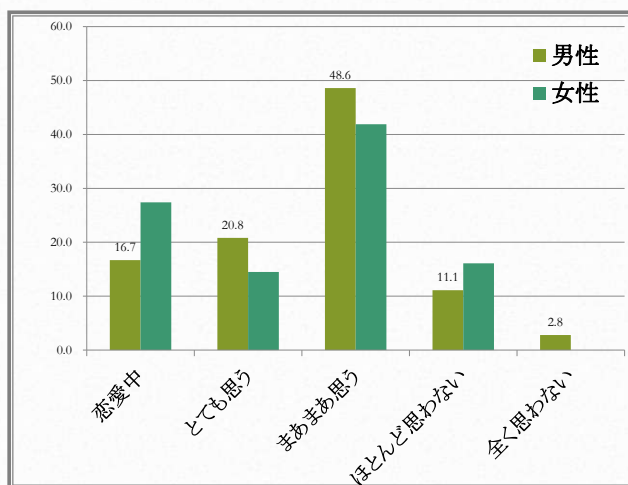
結婚して良かったですか？



32

子世代の回答

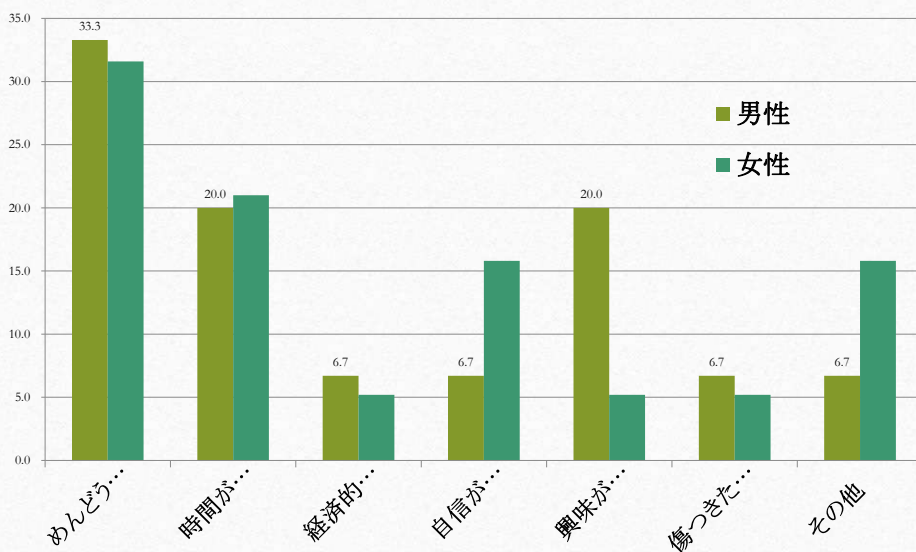
33



恋愛への
関心

34

なぜ恋愛したいとほとんど/全く思わないか



35

最後に



家族は社会の中核



自分の幸せのための
選択肢の一つとしての結婚

36